

『ここ、そこ、あそこ』の認知類型論

——言語は空間をどう分割するか——

今井新悟

要旨

「これ、それ、あれ」や「ここ、そこ、あそこ」のような指示代名詞や指示副詞など（これを空間ダイクシスと呼ぶ）の指し示す領域を決定する要因としてのパラメータについて論じた。432 言語における文法書の記述を調査し、15 言語のネイティブスピーカーをインフォーマントとする調査を踏まえて、各種のパラメータを挙げ、それらの意味について考察した。

空間ダイクシスの意味・語用論の見地から言語間比較を行うため実験を考案して、各言語のデータを収集した。まず、データ収集に先立ち、文法書等の文献資料を参照して、指示表現の語形を採取した。実験に入る前に、性、数、品詞などを変えて、「この本」「あれは私のコップです」「ここからあそこまで歩きます」「これらの本」などの句・文をインフォーマントに対象言語に翻訳してもらい、指示表現の語形の確認を重ねた。最も基本的なセッティングは、以下の図1のように、縦160cm×横75cmのテーブルに、高さ8cmのコップをおいたものである。話し手にそのコップ、あるいはコップの位置を指示表現を使って指し示してもらって、データを収集した。

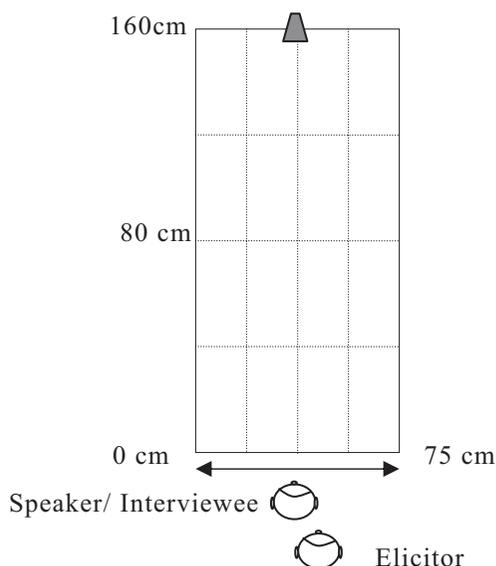


図1 基本セッティング

他にも色々なバリエーションを設けて、各種パラメータを探った。例えば、[聞き手領域] パラメータを探るために、図2、3のような絵を使ったインタビューも行った。



図2 話し手領域



図3 聞き手領域

図2は話し手すなわち患者が自分の背中を指して「ここです」、「ここが痛いです」のような発話をしている場面を想定している。図3は医者が患者の背中を触って「ここですか?」のような発話をしたのに対し、患者が「はい、そこです」のような返答をしている場面で、患者が話し手で、医者が聞き手という想定である。

図1のようなセッティングの他、コップの数を増減させ、位置を変え、また、コップに代えてコイン、動きのあるおもちゃなども適宜用いて、空間指示のパラメータを探った。

調査の結果、最も大事なパラメータは[コントロール]性であることが分かった。ほとんどの言語の文法書は、話し手からの相対的距離に基づいて、つまり、指示対象、指示領域が話し手に近いのか、遠いかを指示詞の意味として記述している。そして、話し手に相対的に近いものは話し手の領域内にあり、話し手から遠いものは話し手の領域外にあるとされる。しかしながら、話し手の領域を決定づけるもととして、この[相対的距離]よりも重要になるパラメータとして、[コントロール]というパラメータが考えられる。[コントロール]のパラメータには、下位分類として[直接接触]、[間接接触]、[(非接触)間接コントロール]が考えられる。[直接接触]とは、手で指示対象を触る場合で、話し手の意志のままに対象を持ち上げたり動かしたりできるため、高いコントロール性を伴う。もちろん、岩のように人間の力では動かしえない対象もあり、厳密にはコントロールできると言えない場合もあるので、ここでは[直接接触]と呼ぶ。[間接接触]とは、例えば釣り竿のような長い道具で遠い指示対象に触れる場合である。[間接コントロール]とは、例えば、遠くにあるコップに結び付けられたひもの端を持って手前に引っ張る場合である。この場合、接触はないが、対象であるコップを手前に動かすことはできる。ただし左右に動かすのは難しく、後ろに押し戻すことは全くできない。この場合のコントロール性の方向は限定されており、コントロール性は低い。

話し手による直接接触の場合、すべての言語で近称が用いられた。[間接接触]および[間接コントロール]の場合、非近称指示詞が用いられる場合もあった。非近称指示詞が現れる度合

いには言語間差が見られた。

以下は調査対象となったすべての言語に関するパラメータをまとめたものである。

<u>ANCHOR</u>	<u>SPATIAL DEMARCATION</u>			
	<u>Distance</u>	<u>Geometric</u>	<u>Geographic</u>	<u>Cardinal direction</u>
Speaker	Neutral	Level	Upriver	North
Addressee	Immediate	Up	Downriver	South
Dual anchor	Proximal	Down	Uphill	East
Adr isolated	Medial	Side	Downhill	West
Spk & Adr	Distal	Behind	Inland/ Bush	
Third person	Remote	Interior	Sea/ Beach	
Participant	Invisible remote	+deictic center	Parallel to a river	
Non-participant	Emphatic remote	-deictic center	Away from a river	
Object		Exterior	Toward a river	
		+deictic center	Mouth of a river	
		-deictic center		
		Other side		

<u>REFERENT / REGION CONFIGURATION</u>			
<u>Quality</u>	<u>Motion</u>	<u>Posture</u>	<u>Visibility</u>
Bounded	Motion	Lying	Invisible-occlusion
Unbounded	Motion with direction	Sitting	Invisible-peripheral sense
Precise	Centripetal	Facing away from S (Behind)	
Vague	Centrifugal	Facing across from S (Beside)	
Restricted	Transversal	Facing toward S (Front)	
Extended	Motion with distance of goal		

<u>FUNCTION (Overt/ Covert)</u>				
<u>Contrast</u>	<u>Control</u>	<u>Presentative</u>	<u>Psychological distance</u>	<u>Information</u>
Equi-distance contrast	Contact/Control	Directive	(abhorrent) distal	Known
Differentiation	Offerative	Unknown		
Selection				

参考文献

- Imai, Shingo (2009) *Spatial Deixis: How Finely Do Languages Divide Space?* Saarbrücken, Germany: VDM Verlag Dr. Müller.
- Imai, Shingo (2003) 'Parameters of Spatial Deixis.' 国松昭他編『松田徳一郎教授追悼論文集』東京：研究社 pp.57-77.
- 今井新悟（2003）「指示詞領域の決定要因」『日本認知言語学会論文集』第3巻 pp.204-214.
- Imai, Shingo (2003) 'Spatial deixis in Korean and Japanese: addressee-anchor isolated system versus dual-anchor system.' *Japanese Korean Linguistics*, CSLI Publications and SLA, Vol.12. pp.340-351.